コムギ種

Wheat

(Triticum aestivum L.)

コムギ種審査基準

I. 審査基準の対象(Subject of these Guidelines)

この審査基準は、イネ科 (Poaceae) コムギ属 (*Triticum* L.) のフツウコムギ種 (*T. aestivum* L.) の全ての品種に適用する。

Ⅱ. 提出種苗(Material Required)

- i) 種苗の形態 種子
- ii) 提出時期 審査当局が指定する時期
- iii) 数量 600g

更に当局の要請があった場合は、穂を 120 本以上提出する。提出する種子は、発芽率、純度、含水量等保存に適したものであること。

- iv)提出する種苗は、重要な病害虫に汚染されていない十分に健全なものであること。
- v)提出種苗は審査当局が指示した場合を除き薬剤、その他の処理をしていないものであること。もし、処理が行われている場合はその処理の詳細について記載すること。

Ⅲ. 試験の実施(Conduct of Tests)

- i) 栽培条件 特性の確認が十分にできる正常な生育が可能な条件下で実施する。
- ii) 最低供試個体数 2,000 個体(2区以上に分割)

穂列試験の場合 100 穂 まき性の試験の場合 300 個体

- iii) 栽培期間 2生育周期
- iv)調查方法

調査個体数 特に指示がない限り、植物体 10 個体又は各個体から採取した部分 10 個とする。

均一性は、特性表の「A」が付されている形質については、植物体 100 個体又は各個体から採取した部分 100 個で判定する。「B」が付されている形質については、植物体 2,000 個体又は各個体から採取した部分 2,000 個で判定する。

調査時期 特に指示がない限り、特性表の調査方法欄に記載した十進コードの 時期に行う。

v)特別な試験 特別な条件下でのみ発現する特性があり、出願者が試験方法等を添え て申告し、審査当局がこれに同意した場合は実施することがある。

IV. 判定基準(Standards for decisions)

判定は、品種登録出願審査等要領の区別性、均一性及び安定性(DUS)審査のための一般基準に基づくものとする。

なお、均一性の判定について、自家受粉品種においては、母集団標準 0.3%、受容確率 95%を適用して判定する。供試個体数が 2,000 の場合、許容される異型個体数は 10 である。

穂列試験及び特性表に「A」が付されている形質については、100 個体で均一性を判定

する。母集団標準 1%、受容確率 95%を適用し、UPOV の TGP8 文書の 8.1.10 節の図表 5 により判定する。供試個体数が 100 の場合、許容される異型個体数は 3 である。

また、特性表に「A」が付されている形質については、形質 2「種子のフェノール反応による着色」と形質 3「しょう葉のアントシアニン着色」を除き、均一性の評価は 2 段階で行うことができる。第 1 段階では、20 個体を観察し、異型個体が観察されない場合は均一性があると判断する。 $1\sim3$ の異型個体が認められた場合は、80 個体を追加して調査し、4 以上の異型個体が認められた場合は、均一性がないと判断する。

交雑品種においては、母集団標準 10%、受容確率 95%を適用し、UPOV の TGP8 文書の 8.1.10 節の図表 1 により判定する。特性表に「B」が付されている形質については、供試 個体数を 200 個体に減らすことができる。供試個体数が 200 の場合、許容される異型個体数は 27 である。穂列試験及び特性表に「A」が付されている形質については、供試個体数が 100 の場合、許容される異型個体数は 15 である。

V. グループ分けに使用する形質(Grouping of Varieties)

- i) 護穎の外面の毛の有無(形質 12)
- ii) 芒の有無(形質 18)
- iii) 穂の色 (形質 20)
- iv) まき性(形質34)

VI. 特性表で使用する記号の説明(Legend)

G: グループ分けに使用する形質

(*): 品種記載の国際調和のための調査形質

QL:質的形質

QN:量的形質

PQ: 擬似の質的形質

(+): Ⅷ. に特性表の説明図等を示す

MG:植物体あるいは植物体の一部を集団として測定記録

MS:植物体あるいは植物体の一部の個々の測定記録

VG:植物体あるいは植物体の一部を集団として観察記録

VS:植物体あるいは植物体の一部の個々の観察記録

必須形質:原則、必ず評価しなければならない形質であり、選択形質以外の全ての形質 のため、特性表の備考欄の記載は省略される。

選択形質:種苗法施行規則第5条第2項に定める出願品種が当該形質によって他の品種と明確に区別されないと出願者が思料する場合に、当該形質に係る特性を願書に記載しないことができる形質。特性表の備考欄に付記される。

状態区分

質的形質及び擬似の質的形質の場合、すべての状態が特性表に記載してある。しかし、5 階級以上の状態がある量的形質の場合、省略した状態が用いられることがある。例えば、9 階級の状態による量的形質の場合、審査基準の状態は、以下のとおりに略されることがある。

	代態 tate)	階級 (Note)				
(日本語)	(English)	(Note)				
小	small	3				
中	medium	5				
大	大 large					

しかし、以下の9階級の状態を品種の記述として使用できるが、その場合には適切に使用するよう留意する。

	状態 (State)	階級 (Note)
(日本語)	(English)	(Note)
極小	very small	1
かなり小	very small to small	2
小	small	3
やや小	small to medium	4
中	medium	5
やや大	medium to large	6
大	large	7
かなり大	large to very large	8
極大	very large	9

VII. 特性表(Table of Characteristics)

形質番号	U P O V	記	形 (Chara	厂質 acteristics)	定義	調査	階	\ })	t 態 State)	標準品種	備
番号	No.	号	(日本語)	(English)	, _ ,,	方法	級	(日本語)	(English)	(Ex.Var.)	考
1	1	PQ	種子の色	Seed: color	種子の色	観察	1	白	white		
		(+)				VG/A	2	赤	red	シロガネコムギ*、	
						00				農林 61 号*	
							3	紫	purple		
							4	青	blue		
2	2	QN	種子のフェノー	Seed: coloration with	種子のフェノール反	観察	1	無又は極淡	absent or very light		
		(+)	ル反応による着	phenol	応による着色の濃淡	VG/A	3	淡	light		
			色			00	5	中	medium		
							7	濃	dark		
							9	極濃	very dark		
3	3	QN	しょう葉のアン	Coleoptile:	本葉が出始めた時の	観察	1	無又は極弱	absent or very weak	シロガネコムギ*、	
		(+)	トシアニンの着	anthocyanin	しょう葉のアントシ	VG/A				農林 61 号*	
			色	coloration	アニン着色の強弱	09-11	3	弱	weak		
							5	中	medium		
							7	強	strong		
							9	極強	very strong		

形質番号	U P O	記		乡質 acteristics)	定義	調査	階	光	t 態 State)	標準品種	備
番号	V No.	号	(日本語)	(English)	, , , , , ,	方法	級	(日本語)	(English)	(Ex.Var.)	考
4	4	QN	草姿	Plant: growth habit	第5~9分げつ期の	観察	1	立	erect		
		(*)			株の姿	VG/B	2	立~半立	erect to semi erect		
		(+)				25-29	3	半立	semi erect		
							4	半立~中	semi erect to	シロガネコムギ*、	
									intermediate	農林 61 号*	
							5	中	intermediate		
							6	中~半ほふく	intermediate to		
									semi prostrate		
							7	半ほふく	semi prostrate		
							8	半ほふく~ほ	semi prostrate to		
								ふく	prostrate		
							9	ほふく	prostrate		
5	5	QN	反曲した止め葉	Plant: frequency of	反曲した止め葉を持	観察	1	無又は極低	absent or very low		
		(+)	を持つ個体の出	plants with recurved	つ個体の出現頻度	VG/B	3	低	low		
			現頻度	flag leaves		47-51	5	中	medium		
							7	高	high		
							9	極高	very high		
6	6	QN	止め葉の葉耳の	Flag leaf: anthocyanin	止め葉の葉耳のアン	観察	1	無又は弱	absent or weak		
		(+)	アントシアニン	coloration of auricles	トシアニン着色の強	VG/B	2	中	medium		
			着色		弱	49-60	3	強	strong		
7	7	QN	出穂期	Time of ear	有効茎数の 50%の穂	測定	3	早	early	シロガネコムギ*	
		(*)		emergence	の第1小穂が見えた	日	5	中	medium	農林 61 号*	
					期日	MG/B	7	晚	late		

形質番号	U P O	記	刑 (Chara	乡質 acteristics)	定義	調査	階	光	t 態 State)	標準品種	備
番号	V No.	号	(日本語)	(English)	72 ,2	方法	級	(日本語)	(English)	(Ex.Var.)	考
8	8	QN	止め葉の葉しょ	Flag leaf: glaucosity	止め葉の葉しょうの	観察	1	無又は極弱	absent or very weak		
		(*)	うの白粉	of sheath	白粉の強弱	VG/B	3	弱	weak		
						60-65	5	中	medium		
							7	強	strong		
							9	極強	very strong		
9	9	QN	止め葉の白粉	Flag leaf: glaucosity	止め葉の葉身裏面の	観察	1	無又は極弱	absent or very weak		
				of blade	白粉の強弱	VG/B	3	弱	weak	シロガネコムギ*、	
						60-65				農林 61 号*	
							5	中	medium		
							7	強	strong		
							9	極強	very strong		
10	10	QN	穂の白粉	Ear: glaucosity	穂の白粉の強弱	観察	1	無又は極弱	absent or very weak		
		(*)				VG/B	3	弱	weak		
						60-69	5	中	medium		
							7	強	strong		
							9	極強	very strong		
11	11	QN	穂首の白粉	Culm: glaucosity of	穂首の白粉の強弱	観察	1	無又は極弱	absent or very weak		
				neck		VG/B	3	弱	weak		
						60-69	5	中	medium		
							7	強	strong		
							9	極強	very strong		
12	12	QL	護穎の外面の毛	Lower glume:	穂中央部の小穂の下	観察	1	無	absent		
		(*)	の有無	hairiness on external	側の護穎の外面の毛	VG/B	9	有	present		
		G		surface	の有無	69-92					

形質番号	U P O	記		乡質 acteristics)	定義	調査	階		犬態 (State)	標準品種	備
号	V No.	号	(日本語)	(English)		方法	級	(日本語)	(English)	(Ex.Var.)	考
13	13	QN	草丈	Plant: length	植物体の先端までの	測定	3	低	short		
		(*)			高さ(穂、長芒及び	cm	5	中	medium		
					短芒を含む。)	MS/B	7	高	long		
						75-92					
14		QN	稈の長さ	Stem: length	最長稈の地際から穂	測定	1	極短	very short		
					首節までの長さ	cm	2	かなり短	very short to short		
						MS/B	3	短	short	シロガネコムギ*	
						80-92	4	やや短	short to medium		
							5	中	medium		
							6	やや長	medium to long	農林 61 号*	
							7	長	long		
							8	かなり長	long to very long		
							9	極長	very long		
15	14	QN	穂首節直下の節	Straw: pith in cross	穂首節直下の節間の	観察	1	薄	thin	シロガネコムギ*、	
		(*)	間の髄の厚さ	section	中央部の横断面の髄	VG/A				農林 61 号*	
		(+)			の厚さ	80-92	2	中	medium		
							3	厚又は充満	thick or filled		
16	15	QN	粒着密度	Ear: density	穂の粒の粗密(小穂	観察/	3	粗	lax		
		(*)			数/穂長の割合)	測定	5	中	medium	シロガネコムギ*、	
						VG/B				農林 61 号*	
						MS/B	7	密	dense		
						80-92					

形質番号	U P O	記		乡質 acteristics)	定義	調査	階		大態 State)	標準品種	備
一番号	No.	号	(日本語)	(English)		方法	級	(日本語)	(English)	(Ex.Var.)	考
17	16	QN	穂の長さ	Ear: length	穂の長さ(長芒、短	観察/	1	極短	very short		
					芒を含まない。)	測定	2	かなり短	very short to short		
						cm	3	短	short		
						VG/B	4	やや短	short to medium	シロガネコムギ*	
						MS/B	5	中	medium	農林 61 号*	
						80-92	6	やや長	medium to long		
							7	長	long		
							8	かなり長	long to very long		
							9	極長	very long		
18	17	QL	芒の有無	Ear: scurs or awns	穂の先端の頴の短芒	観察	1	両方無	both absent		
		(*)			又は長芒の有無	VG/B	2	短芒有り	scurs present		
		(+)				80-92	3	長芒有り	awns present	シロガネコムギ*、	
		G								農林 61 号*	
19	18	QN	穂の先端の芒の	Ear: length of scurs or	穂の先端部に着く粒	観察/	3	短	short		
		(*)	長さ	awns	の短芒又は長芒の長	測定	5	中	medium		
		(+)			さ	mm	7	長	long		
						VG/B					
						MS/B					
						80-92					
20	19	QL	穂の色	Ear: color	糊熟期~完熟期の穂	観察	1	白	white	シロガネコムギ*	
		(*)			の色	VG/B	2	着色	colored	農林 61 号*	
		(+)				80-92					
		G									

形質番号	U P O	記	刑 (Chara	戶質 acteristics)	定義	調査	階	;) H	t 態 State)	標準品種	備
一号	V No.	号	(日本語)	(English)		方法	級	(日本語)	(English)	(Ex.Var.)	考
21	20	PQ	穂の形	Ear: shape in profile	側面から見た穂の形	観察	1	先細	tapering		
		(+)				VG/B	2	両側平行	parallel sided		
						80-92	3	やや棍棒状	slightly clavate		
							4	棍棒状	strongly clavate		
							5	紡錘状	fusiform	シロガネコムギ*、	
										農林 61 号*	
22	21	QN	穂軸の先端凸部	Apical rachis	穂軸の先端凸部表面	観察	1	無又は極小	absent or very		
		(+)	表面の毛	segment: area of	の毛が着生する面積	VG/A	3	小	small		
				hairiness of convex	の大小	80-92	5	中	small		
				surface			7	大	medium		
							9	極大	large		
									very large		Ш
23	22	QN	護穎の肩部の幅	Lower glume:	穂中央部の小穂の下	観察	1	無又は極狭	absent or very		
		(+)		shoulder width	側の護頴の肩部の幅	VG/A	3	狭	narrow	ミナミノカオリ*	
						80-92	5	中	narrow	シロガネコムギ*、	
									medium	ニシノカオリ*	
							7	広			
							9	極広	broad		
									very broad		
24	23	QN	護穎の肩部の形	Lower glume:	穂中央部の小穂の下	観察	1	強く下がる	strongly sloping		
		(+)		shoulder shape	側の護頴の肩部の形	VG/A	3	やや下がる	slightly sloping	農林 61 号*	
						80-92	5	水平	horizontal		
							7	やや上がる	slightly elevated		
							9	強く上がる	strongly elevated		

形質番号	U P O V No.	記	形 (Chara	質 acteristics)	定義	調査	階	为 (i	t 態 State)	標準品種	備
番号	V No.	号	(日本語)	(English)	72 32	方法	級	(日本語)	(English)	(Ex.Var.)	考
25	24	QN	護頴の嘴の長さ	Lower glume: length	穂中央部の小穂の下	観察/	3	短	short		
		(+)		of beak	側の護頴の嘴の長さ	測定	5	中	medium	シロガネコムギ*	
						mm	7	長	long	ミナミノカオリ*	
						VG/A					
						MG/A					
						MS/A					
						80-92					
26	25	QN	護頴の嘴の形	Lower glume: shape	穂中央部の小穂の下	観察	1	直	straight		
		(*)		of beak	側の護頴の嘴の形	VG/A	3	やや曲がる	slightly curved		
		(+)				80-92	5	曲がる	moderately curved		
							7	強く曲がる	strongly curved		
							9	鋭角に曲がる	geniculate		
27	26	QN	護頴の内側の毛	Lower glume: area of	穂中央部の小穂の下	観察	1	極小	very small		
		(+)		hairiness on internal	側の護頴の内面の毛	VG/A	3	中	medium		
				surface	の着生面積	80-92	5	極大	very large		
28		PQ	稃の色	Glume: color	完熟期の稃の色	観察	1	淡黄	light yellow		
						VG/A	2	黄	yellow	シロガネコムギ*	
						91-92	3	黄褐	yellowish brown		
							4	褐	brown	農林 61 号*	
							5	赤褐	reddish brown		
							6	赤	red		
							7	赤紫	reddish purple		
							8	紫	purple		
							9	濃紫	deep purple		

形質番号	U P O	記		杉 質 racteristics)	定義	調査	階		犬態 (State)	標準品種	備
号	V No.	号	(日本語)	(English)		方法	級	(日本語)	(English)	(Ex.Var.)	考
29		PQ	粒の形	Grain: shape	原麦粒の長さと幅の	観察	1	極円	round		
					比	VG/A	2	円	round to oval		
						92	3	楕円	oval	シロガネコムギ*、	
										農林 61 号*	
							4	狭楕円	slender		
30		QN	成熟期	Time of maturity	全穂数の80%の穂首	観察	3	早	early	シロガネコムギ*	
					部が黄化し、粒の硬	MG/B	5	中	medium	農林 61 号*	
					さがろう程度になっ		7	晚	late		
					た日						
31		QN	千粒重	1000 grain weight	原麦粒の千粒の重さ	測定	3	小	low		
						g	5	中	medium	シロガネコムギ*、	
						MG/A				農林 61 号*	
						92	7	大	high		
32		QL	胚乳の型	Grain: endosperm	胚乳でんぷんのうる	観察	1	うるち	non-glutinous	シロガネコムギ*、	
				type	ち性、もち性の別	VS/A				農林 61 号*	
						92	2	もち	glutinous		
33		QN	粒質	Grain: glassiness	硝子率による粒質の	測定	1	粉質	floury	シロガネコムギ*、	選
		(+)			別	MG/A				農林 61 号*	択
					(硝子率が 70%以上	92	2	中間質	medium		形
					の場合を硝子質、		3	硝子質	glassy		質
					30%以下の場合を粉						
					質とする。)						

形質番号	U P O V	記	刑 (Chara	乡質 acteristics)	定義	調査	階	为 (t 態 State)	標準品種	備
番号	No.	号	(日本語)	(English)		方法	級	(日本語)	(English)	(Ex.Var.)	考
34	27	PQ	まき性	Seasonal type	まき性のタイプ	観察	1	秋まき型	winter type		
		(*)				VG	2	中間型	alternative type		
		(+)					3	春まき型	spring type	シロガネコムギ*、	
		G								農林 61 号*	
35		QN	穂発芽性	Sprouting resistance	穂発芽の難易	観察/	3	易	weak		選
		(+)				測定	5	中	medium		択
						VS/	7	難	stong		形
						MS					質

^{*}標準品種欄の「シロガネコムギ」、「農林 61 号」、「ミナミノカオリ」及び「ニシノカオリ」は、暖地・温暖地における標準品種である(標準品種設定に際して調査を実施した調査地:福岡県筑後市、茨城県つくば市、広島県福山市)。

電気泳動法を用いる形質(形質 $36\sim38$)Characteristics derived by using Electrophoresis

形質番号	U P O	記	形 (Chara	厂質 acteristics)	定義	調査	階	_	犬 態 State)	標準品種	備
音号	V No.	号	(日本語)	(English)	75 42	方法	級	(日本語)	(English)	(Ex.Var.)	考
36	28	QL	グルテニン組	Glutenin composition:	Glu-A1 遺伝子座にあ		1	バンド1	band 1		選
		(+)	成 : Glu-A1 遺伝	allele expression at	る対立遺伝子の発現		2	バンド2	band 2	農林 61 号*	択
			子座にある対立	locus Glu-A1	型によるグルテニン		3	バンド無し	no band	シロガネコムギ*	形
			遺伝子の発現		組成						質
37	29	QL	グルテニン組	Glutenin composition:	Glu-B1 遺伝子座にあ		1	バンド 6+8	bands 6+8		選
		(+)	成:Glu-B1 遺伝	allele expression at	る対立遺伝子の発現		2	バンド 7+8	bands 7+8	シロガネコムギ*、	択
			子座にある対立	locus Glu-B1	型によるグルテニン					農林 61 号*	形
			遺伝子の発現		組成		3	バンド 7+9	bands 7+9		質
							4	バンド7(又は	band 7(or 7+9 in the		
								形質 38 のバン	presence of bands		
								ド 5+10 とと	5+10 of char. Glu-		
								もにバンド	D1)		
							5	7+9)	bands 13+16		
							6	バンド 13+16	bands 14+15		
							7	バンド 14+15	bands 17+18		
							8	バンド 17+18	band 20		
							9	バンド 20	bands 6.1+22		
								バンド 6.1+22			

形質	U P O	記	形 (Chara	》質 acteristics)	, 	調査	階		犬態 State)	標準品種	備
形質番号	V No.	号	(日本語)	(English)	定義	方法	級	(日本語)	(English)	(Ex.Var.)	考
38	30	QL	グルテニン組成:	Glutenin composition:	Glu-D1 遺伝子座にあ		1	バンド 2+12	bands 2+12		選
		(+)	Glu-D1 遺伝子座	allele expression at	る対立遺伝子の発現		2	バンド 3+12	bands 3+12		択
			にある対立遺伝	locus Glu-D1	型によるグルテニン		3	バンド 4+12	bands 4+12		形
			子の発現		組成		4	バンド 5+10	bands 5+10		質
							5	バンド 2.2+12	bands 2.2+12	シロガネコムギ*、	
										農林 61 号*	

Ⅷ. 特性表の説明(Explanations on the Table of Characteristics)

形質 1 種子の色 Char.1 Seed: color

種子の色は乾いた種子または NaOH 溶液(5M NaOH 溶液に 60°Cで 10 分間または室温で 60 分間浸した種子)を使用して観察する。

形質2 種子のフェノール反応による着色

Char.2 Seed: coloration with phenol

フェノールによる種子の着色は、紫あるいは青系の種子では観察できない。

フェノール反応の方法

供試粒数 100粒 (無処理の粒を使用すること)

調整 16-20時間流水に浸した後、縦溝を下にして蓋付きシャーレに置床

試薬の作成 1%フェノール溶液(試験毎に作成)

試薬の量 粒の 3/4 を浸す

試験場所 実験室

光条件 直射の当たらない自然光下

温度 18-20℃

調査時期 浸漬後4時間

階級値 判定の指標として少なくとも2以上の標準品種を含めること。

同じ結果が得られる場合は、任意の代替法を使用できる。

形質3 しょう葉のアントシアニンの着色

Char.3 Coleoptile: anthocyanin coloration

アントシアニン着色程度の調査方法

供試粒数 100 粒

粒の準備 休眠していない粒をシャーレ内の湿潤ろ紙上に置床し発芽させる。

試験場所 実験室又は温室内

光条件 しょう葉が約1cmになるまでは暗黒条件下で、その後、3~4日

15,000Lux の連続光条件下。

温度 15~20℃

調査時期 しょう葉が十分に生育した時期(約1週間)生育コード表の09-11

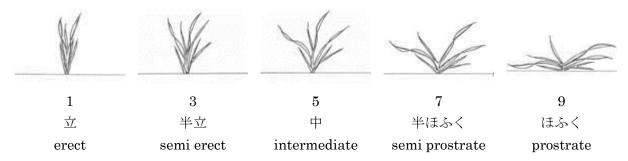
階級値 区別性の試験には、判定の指標として少なくとも2以上の標準品種を含め

ること。

同じ結果が得られる場合は、任意の代替法を使用できる。

形質 4 草姿 Char.4 Plant: growth habit

草姿は葉と分げつの状態の観察による。外側の葉と分げつが仮想の垂直軸と作る角度を用いる。



形質 5 反曲した止め葉を持つ個体の出現頻度

Char.5 Plant: frequency of plants with recurved flag leaves

1 (無又は極低):全ての個体が直立

3 (低):約1/4の個体が反曲 5 (中):約1/2の個体が反曲 7 (高):約3/4の個体が反曲 9 (極高):全ての個体が反曲

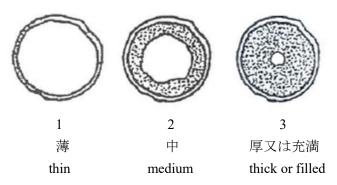
形質6 止め葉の葉耳のアントシアニン着色

Char.6 Flag leaf: anthocyanin coloration of auricles

ステージ 49 と 60 の間の適切な評価時期は場所に応じて決定する。全ての品種は同じステージで評価する必要がある。

形質 15 穂首節直下の節間の髄の厚さ Char.15 Straw: pith in cross section

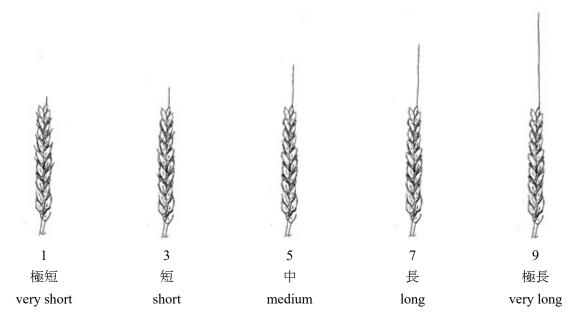
横断面の髄は穂首節と最上節の中間点で観察する。 植物体を代表する茎を複数調べて、最も高い評点を記録する。



形質 18 芒の有無 Char.18 Ear: scurs or awns

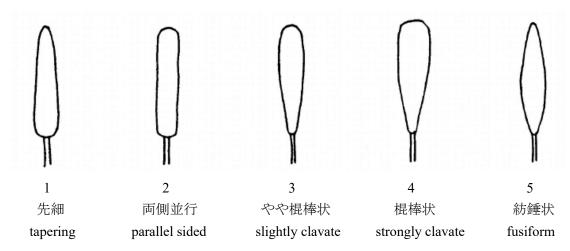


形質 19 穂の先端の芒の長さ Char.19 Ear: length of scurs or awns 短芒も長芒もない品種では観察できない。



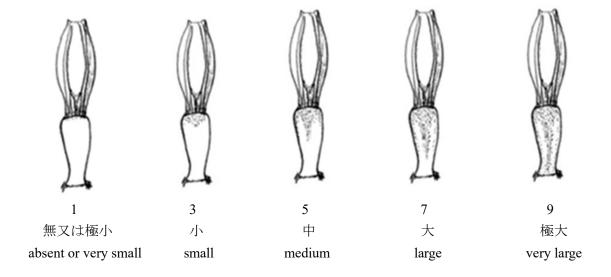
形質 20 穂の色 Char.20 Ear: color 白い穂の品種は、環境条件のためにわずかに色が付いている場合がある。

形質 21 穂の形 Char.21 Ear: shape in profile

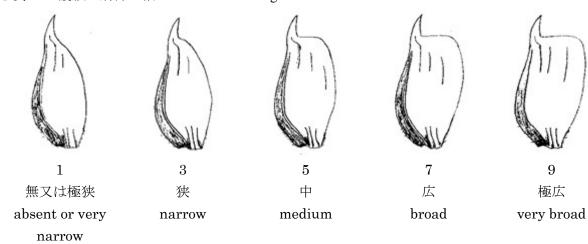


形質 22 穂軸の先端凸部表面の毛

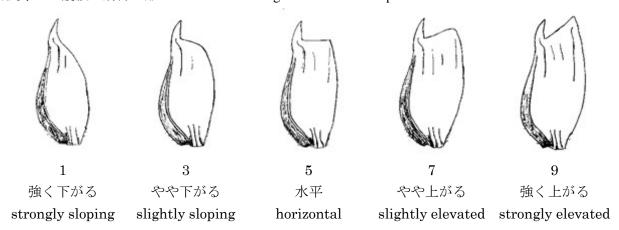
Char.22 Apical rachis segment: area of hairiness of convex surface



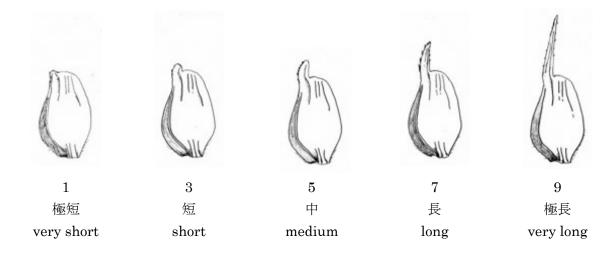
形質 23 護頴の肩部の幅 Char.23 Lower glume: shoulder width



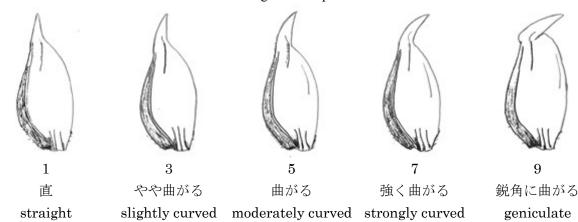
形質 24 護頴の肩部の形 Char.24 Lower glume: shoulder shape



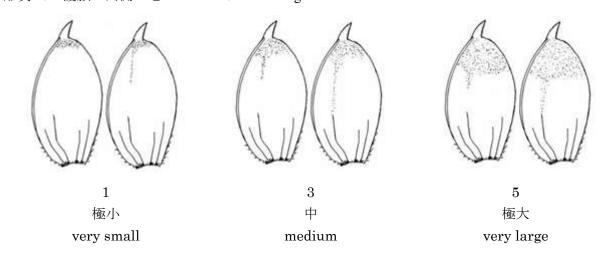
形質 25 護頴の嘴の長さ Char.25 Lower glume: length of beak



形質 26 護頴の嘴の形 Char.26 Lower glume: shape of beak



形質 27 護頴の内側の毛 Char.27 Lower glume: area of hairiness on internal surface



形質 33 粒質 Char.33 Grain: glassiness

100 粒を横断し、断面の観察から硝子質粒、中間質粒及び粉質粒に分け、以下の計算式により、硝子率を算出する。

硝子率 (%) の計算式

 $=(1\times[$ 硝子質粒の数] $+0.5\times[$ 中間質粒の数] $+0\times[$ 粉質粒の数])/[全調査粒数] $\times 100$ (硝子質粒を 1、中間質粒を 0.5、粉質粒を 0 とする重み付け平均)

粉質粒:切断面の30%以下が半透明の硝子状になっているもの中間質粒:切断面の30%~70%が半透明の硝子状になっているもの硝子質粒:切断面の70%以上が半透明の硝子状になっているもの

硝子率が70%以上を硝子質、30%以下を粉質、その中間を中間質とする。

形質 34 まき性 Char.34 Seasonal type

まき性調査(春化の必要性)は、標準品種を加えて全ての品種を春まきする。

最も遅い春まき品種が完全に成熟した時期(十進コード表のステージ 91/92 に達したとき)に、供試した各品種の状態を調査する。各タイプの状態は以下に示す。

秋まき型 最大で十進コード表のステージ 45 になる。

中間型 十進コード表のステージ 45 を超えて、一般にステージ 75 以上にな

り、最大でステージ90となる。

春まき型 十進コード表のステージ90を超える。

形質 35 穂発芽性 Char. 35 Sprouting resistance

試験方法

1. 供試材料

慣行法によって栽培され、成熟期に達した麦穂を各品種 5 穂以上供試する。 穂発芽程度の異なる標準品種等を複数供試する。

2. 発芽処理

穂のまま散水装置等で麦穂に吸水させる。

吸水後,一定温度条件で発芽処理する。(10~15℃を目安とするが、供試した標準品種等が適切な特性を示す温度で行う)

穂が乾かないように、必要に応じて吸水処理は追加又は継続して行う。

3. 穂発芽程度調査

発芽処理後、概ね7~10日後に以下の評点で穂ごとに達観調査を行う。

評点: 穂発芽程度

0 (穂発芽が認められない)~5 (著しく穂発芽が認められる)

発芽処理後の穂を乾燥、脱穀し発芽率(発芽粒/穂の粒数)を算出して穂発芽程度を 判定しても可。

4. 評価方法

品種ごとの評点又は発芽率の平均を標準品種等との比較により相対評価する。

5. 記載データ

吸水(散水)条件の期間・頻度及び温度条件を記載する。

穂発芽性の標準品種

<u>1心 エク 1.</u>	T 07 1/V-	T HH IX							
	1	2	3	4	5	6	7	8	9
	極易	かなり易	易	やや易	中	やや難	難	かなり難	極難
寒地 春まき					ハルユタカ		はるきらり		
寒地秋まき					ゆめちから	きたほなみ			
寒冷地				キタカミコムギ		ゆめかおり	銀河のちから ユメセイキ しろゆたか		
温暖地暖地			ミナミノカオリ	シロガネコムギ	イワイノダイチ ニシノカオリ トワイズミ	タマイズミ ゆめかおり さぬきの夢2009	チクゴイズミ 農林61号 ちくしW2号 きぬあかり	ゼンコウジコムギ	

※寒地:北海道、寒冷地:東北・北陸、温暖地・暖地:関東以西

形質 36-38 電気泳動法の説明 Char.36-38 Description of the method to be used

概要

以下は電気泳動によって明らかにされた貯蔵タンパク質に基づく特性のリストと使用するための手法の解説である。UPOV はこれらの特性をテストガイドラインの別添に掲載することを決め、特性の特別なカテゴリーを作成した。なぜなら、UPOVメンバーの大半は電気泳動によって明らかにされた貯蔵タンパク質マーカーに基づく特性で見られる差異だけに基づいて区別性をつけることはできないという見解であるためである。従って、このような特性は形態的又は生理的特性における他の区別性を補完するものとしてのみ使用するべきである。UPOVはこれらの特性が有用であると考えているが、区別性をつけるためにはそれらが十分ではないかもしれないことを再確認する。これらは通常の特性として使用するのではなく、出願品種の出願者の要求や同意に基づいて使用されるべきである。

高分子量(HMW)のグルテニンの分析には、ドデシル硫酸ナトリウムの存在下でのポリアクリルアミドゲル電気泳動(SDS PAGE)が使用される。同じ結果が得られるのであれば、他の方法でも良い。グルテニンはグループ 1 染色体の長腕にある Glu-A1、Glu-B1 及び Glu-D1 として知られる 3 つの複合遺伝子座によってコード化されている。各遺伝子座には多くの対立遺伝子があり、HMW グルテニンの分析は、明確に定義されたバンドやバンドパターンのシリーズとしてゲル上に現れるタンパク質からこれらの対立遺伝子を識別している。対立遺伝子は、1983 年に Payne と Lawrence¹⁾ が定義したバンド番号で表示される。対応する文字と見かけの分子量は、下記の説明に記載されている。

試験方法の説明

1. 器具と設備

ゲルを一定の温度で保つことができる適切な垂直電気泳動システムを使用する。 ゲル の厚さは 1.5mm 以下を推奨する。使用する電源は、定電流、定電圧出力の両方ともできるべきである。

2. 試薬

アクリルアミド (電気泳動用に特別に精製したもの)

ビスアクリルアミド (同上)

TRIS (トリスヒドロキシメチルアミノメタン)

SDS (ドデシル硫酸ナトリウム)

APS(過硫酸アンモニウム)

2-メルカプトエタノール

TEMED (テトラメチルサイレンジアミン)

TCA (クエン酸)

塩酸

氷酢酸

グリシン

ブタノール

ピロニンY (又はG)

グリセリン

メタノールまたはエタノール

クマシーブリリアントブルーR-250

クマシーブリリアントブルーG-250

3. 溶液

3.1 抽出液

3.1.1 グルテニンの抽出のみ

貯蔵液:

6.25 mL 1M TRIS HCl 緩衝液, pH 6.8 (3.3.2 参照)

12.05 mL 蒸留水

2.0g SDS

10 mg ピロニンY (又はG)

10 mL グリセリン

この溶液は4℃で2ヶ月間保存できる。

使用直前に抽出液を以下のように調整する。

4.25mL 貯蔵液(上記) に 0.75mL の 2-メルカプトエタノールと蒸留水を加えて 10mL にする。この溶液は使用直前に準備する必要があり、保存することはできない。

3.1.2 グリアジンの後のグルテニンの抽出

A液-25mL 2-メルカプトエタノール+50mg ピロニン Y/G を蒸留水に加えて 100mL にする。

B 液-27.0g 尿素、3.0mL 2-メルカプトエタノール+10.0g SDS を蒸留水に加えて 100mL にする。

3.2 電気泳動 (通電) 用緩衝液

保存液

グリシン 141.1g と TRIS 30.0g、SDS 10.0g を蒸留水を加えて1Lとする。

使用直前に、保存液を蒸留水で1:10に希釈する。

保存緩衝液は室温で2ヶ月間保存が可能である。希釈緩衝液は1週間以上おかな

いこと。緩衝液の pH は 8.3 近くとする。

3.3 ゲル調製液

3.3.1 分解用ゲルの保存緩衝液 (1M TRIS HCI、pH 8.8)

TRIS 121.14g と塩酸(d=1.19) 20mL を蒸留水に加えて 1 L とする。この緩衝液は 4° C で 2 ヶ月間保存が可能である。

3.3.2 スタッキングゲル保存緩衝液 (1M TRIS HCl、pH 6.8)

TRIS 121.14g と塩酸 78mL を蒸留水に加えて 1 L とする。この緩衝液は 4 \mathbb{C} で 2 か月間保存が可能である。

3.3.3 10%(w/v)ドデシル硫酸ナトリウム液

SDS 10.0g を蒸留水に溶解して 100mL とする。この保存液は 4° で 2_{\circ} 月間保存が可能である。使用に先立って、SDS が結晶化していたら、撹拌してゆるやかに温めて SDS を溶解させる。

3.3.4 1%(w/v)過硫酸アンモニウム液

APS 1g を蒸留水に溶解して 100mL とする。この溶液は使用直前に作る。

3.3.5 アクリルアミド保存液

アクリルアミド 40.02g を蒸留水に加えて 100mL とする。

3.3.6 ビスアクリルアミド保存液

ビスアクリルアミド 0.5198g を蒸留水に加えて 130mL とする。

- 3.4 染色液
- 3.4.1 クマシーブリリアントブルーG-250~0.25g とクマシーブルリリアントブルーR-250~0.75g を蒸留水に加えて 100mL とする。
- 3.4.2 TCA 55.0g と氷酢酸 65mL、メタノールまたはエタノール 180mL、3.4.1 液 25mL を蒸留水に加えて 1L とする。

4. 手順

- 4.1 タンパクの抽出
 - 4.1.1 グルテニンのみの抽出

種子をハンマー(他の道具でも可)で粉砕する。粉と、希釈した試料抽出緩衝液 (3.1.1)を、ねじ蓋か密閉蓋のついた 3mL 容量のポリエチレン製血液遠心分離用チューブの中に入れて混ぜる。粉と抽出緩衝液の割合は、50mg/0.75mL とする。試料抽出は室温で2時間かかる。その間に数回、ボルテックスミキサーにかけて撹拌し、その後、沸騰させた湯煎器で10分間湯煎したのち冷却する。チューブを18,000gで5分

間遠心分離する。

4.1.2 グリアジンの後のグルテニンの抽出

グルテニンとグリアジンを同じ麦粒から分析できる。グリアジン抽出のため、はじめに粉砕粉(1粒または半粒)とA液(3.1.2) 0.25mL をミクロ滴定板かミクロ遠沈管に入れて、室温で一晩培養する。次にグルテニン抽出のために、粉砕粉にB液(3.1.2) 0.5mL を加えて、室温で一晩培養する。

泳動しようとする抽出物の量はゲルの厚さや泳動槽の大きさによって異なる。一般には、 10μ Lないし 25μ L あれば十分である。

4.2 ゲルの準備

用いる装置のデザインに従って、清潔で十分に乾燥したゲルカセットを組み立てる。カセットのシールにテープを用いるときは、テープがなれてよく着くよう、少なくとも使用する1日前に装置を組み立てるとよい。

4.2.1 分解用ゲル (10%アクリルアミド、pH 8.8)

二枚垂直型ゲル (180mm×160mm×1.5mm) を作成するため、アクリルアミド保存液 (3.3.5) 20mL、ビスアクリルアミド保存液(3.3.6) 26mL、ゲル保存液(3.3.1) 30mL を室温で混合する。混合液は 100mL の真空フラスコ内で 2~3 分かけてガス抜きをする。これに、APS(3.3.4) 2mL と SDS(3.3.3.) 0.8mL、TEMED 40μ L(瓶から直接供試)を加える。次に、空気泡を立てないようにゲルを注意深く注入して、室温に置いて重合させる。

ゲルカセットは満杯にせず、スタッキングゲルのために3~4cmの空きを残しておく。ゲルの表面にはピペットを用いてブタノール(または蒸留水)で注意深く覆う。 30分ほどで重合が終わるので、ゲル表面を蒸留水で注意深くすすぎ、ろ紙で乾かす。

4.2.2 分解用ゲル (7%アクリルアミド、pH 8.8)

サブユニット2と2*を分解するため、7%濃度のアクリルアミドが必要である。

二枚垂直型ゲル (180mm×160mm×1.5mm) を作製するため、アクリルアミド保存液 (3.3.5) 14mL と蒸留水 6mL、ビスアクリルアミド保存液(3.3.6) 26mL、ゲル保存液 (3.3.1) 30mL を室温で混合する。混合液は 100mL の真空フラスコ内で $2\sim3$ 分かけてガス抜きする。これに、APS(3.3.4) 2mL と SDS(3.3.3.) 0.8mL、TEMED 40μL(瓶から直接供試)を加える。次に、空気泡を立てないようにゲルを注意深く注入して、室温に置いて重合させる。

ゲルカセットは満杯にせず、スタッキングゲルのために3~4cmの空きを残しておく。ゲルの表面にはピペットを用いてブタノール(または蒸留水)で注意深く覆う。 30分ほどで重合が終わるので、ゲル表面を蒸留水で注意深くすすぎ、ろ紙で乾かす。

4.2.3 スタッキングゲル (3%のアクリクアミド、pH 6.8)

50mL の真空フラスコにアクリルアミド保存液(3.3.5) 1.50mL とビスアクリクアミ

ド保存液(3.3.6) 2.15mL、ゲル緩衝保存液(3.3.2) 2.50mL、の蒸留水 13.15mL を入れて混合する。ガス抜き後、これに APS(3.3.4) 0.75mL との SDS(3.3.3) 0.2mL、TEMED 15 μ L (瓶から直接供試) を加える。

これを注意深く混合後、すぐに、スタッキングゲルをゲルカセットの上端まで注ぎいれる。空気泡を立てないようにサンプルコームを挿入して、室温で2時間重合させる。そののちコームをゲルカセットから静かに抜いて、希釈泳動緩衝液(3.2)で泳動槽をすすぐ。

4.3 電気泳動

泳動槽に適量の通電用緩衝液(3.2)を満たし、15[°]Cに冷却する。試料を投入後、ピロニンY/Gがスタッキングゲルを通り抜けるまで $8mA/cm^2$ (断面積)の定常電流で電気泳動を行い、さらにマーカーがゲルの下端に達するまで $16mA/cm^2$ (最大電圧 300V)で泳動を続ける。温度は常に 15[°]Cを維持する。

4.4 静置および染色

ゲルカセットを泳動槽から取り出して開き、ゲルを 15%(w/v) TCA 250mL 溶液内で少なくとも 30 分間静置する。ゲルを蒸留水ですすぎ、染色液(3.4.2) 250mL を用いて室温で一晩染色する。脱色は必ずしも必要ないが、ゲルはポリエチレン袋で密閉される前に蒸留水で洗うべきである。

他の染色法も利用できる(例えば、クマシーブリリアントブルーGや同濃度のTCAのみ)。ゲルの調製と染色の最終的な品質調節基準は、ゲルに現れた標準品種を分析して決める。相対電気泳動の移動度(分子量)は明確な判断のために明瞭でなければならない。

5. グルテニン対立遺伝子の識別

この表は各遺伝子座からの全てのグルテニンバンドの分子量を説明するために設計 されている。

HMW グルテニンのサブユニット:個々のバンドの命名

Band number	Molecular weight (kDa)
1	113
2	108
2*	108
3	107
4	106
5	105
6	100
6.1	99
7	98
8	86
9	83
10	83
12	80
13	94

14	94
15	91
16	90
17	89.5
18	89.5
20	94
22	87

形質 36 グルテニン組成: Glu-A1 遺伝子座にある対立遺伝子の発現

Char.36 Glutenin composition: allele expression at locus Glu-A1

			Note	
		1	2	3
1	(113)	1		
2/2*	(108)		2*	no band
3	(107)			
4	(106)			
5	(105)			
6	(100)			
6.1	(99)			
7	(98)			
13/14/20	(94)			
15	(91)			
16/17/18	(90/89.5)			
22	(87)			
8	(86)			
9/10	(83)			
12	(80)			
	·-			

形質 37 グルテニン組成: Glu-B1 遺伝子座にある対立遺伝子の発現

Char.37 Glutenin composition: allele expression at locus Glu-B1

		Note								
		1	2	3	4	5	6	7	8	9
1	(113)									
2/2*	(108)									
3	(107)									
4	(106)									
5	(105)									
6	(100)	6								
6.1	(99)									6.1
7	(98)		7	7	7					
13/14/20	(94)					13	14		20	
15	(91)						15			
16/17/18	(90/89.5)					16		17/18		
22	(87)									22
8	(86)	8	8							
9/10	(83)			9						
12	(80)									

形質 38 グルテニン組成: Glu-D1 遺伝子座にある対立遺伝子の発現

Char.38 Glutenin composition: allele expression at locus Glu-D1

			No	ote	
		1	2	3	4
1	(113)				
2/2*	(108)	2			
3	(107)		3		
4	(106)			4	
5	(105)				5
6	(100)				
6.1	(99)				
7	(98)				
13/14/20	(94)				
15	(91)				
16/17/18	(90/89.5)				
22	(87)				
8	(86)				
9/10	(83)				10
12	(80)	12	12	12	

備考:特定のバンド(例えばバンド9及び10)は分子量が類似している。これは、Glu-D1 (形質38)のバンド5+10の存在下では、Glu-B1(形質37)のバンド7及びバンド7+9が互いに識別することができないことになる。そこで、Glu-D1のバンド5+10の存在下では、Glu-B1の階級値4がバンド7又はバンド7+9のいずれかであり得る。分子量が類似する他のバンドはそれらの既知の関係から互いに識別できる。Glu-B1では、バンド20は単独であるが、バンド13は常にバンド16と、バンド14は常にバンド15と結びついている。

1) Payne, P.I., and Lawrence, G.J., 1983: Catalogue of alleles for the complex gene loci, Glu-A1, Glu-B1 and Glu-D1 which code for the high-molecular-weight subunits of the glutenin in hexaploid wheat. Cereal Res. Commun., 11: pp. 29 to 35.

IX. 生育ステージに関する十進コード

The descriptions of the growth stages of the Zadoks decimal code for cereals

Zadok	s	Zadol	Zadoks				
Decim	al 一般記述 Description	Decin	nal 一般記述 Description				
code		code					
	発芽 Germination		<u>分げつ期 Tillering</u>				
00	乾燥種子 Dry seed	20	主茎のみ Main shoot only				
01	吸水開始 Start of imbibition	21	主茎及び第1分げつ				
			Main shoot and 1 tiller				
03	吸水完了 Imbibition complete	22	主茎及び第2分げつ				
	feet en a a de la lance de carre		Main shoot and 2 tillers				
05	類果から幼根の出現	23	主茎及び第3分げつ				
0.7	Radicle emerged from seed	2.4	Main shoot and 3 tillers				
07	類果からしょう葉の出現	24	主茎及び第4分げつ				
00	Coleoptile emerged from seed	25	Main shoot and 4 tillers 主茎及び第 5 分げつ				
09	しょう葉先端に葉がのぞく Leaf just at coleoptile tip	25	主全及い男 3 分りの Main shoot and 5 tillers				
	Lear just at coleoptile tip	26	idan shoot and 3 tiners 主茎及び第 6 分げつ				
		20	五金及の第6分の 5 Main shoot and 6 tillers				
	苗の生長 Seedling growth	27	主茎及び第7分げつ				
	m > m > seeding growin	2,	Main shoot and 7 tillers				
10	しょう葉から第1葉が出る	28	主茎及び第8分げつ				
	First leaf through coleoptile		Main shoot and 8 tillers				
11	第1葉の展開	29	主茎及び第9又はそれ以上の分げつ				
	First leaf unfolded		Main shoot and 9 or more tillers				
12	第2葉の展開						
	2 leaves unfolded						
13	第3葉の展開		茎の伸長 Stem elongation				
	3 leaves unfolded						
14	第4葉の展開	30	偽茎の立ち上がり				
1.5	4 leaves unfolded	2.1	Pseudo stem erection				
15	第5葉の展開	31	第1節が認められる				
16	5 leaves unfolded 第6葉の展開	32	1st node detectable 第 2 節が認められる				
16	第 6 乗り展開 6 leaves unfolded	32	男 2 側が能められる 2nd node detectable				
17	第7葉の展開	33	第3節が認められる				
1 /	カイ来の展開 7 leaves unfolded	33	3rd node detectable				
18	第8葉の展開	34	第4節が認められる				
	8 leaves unfolded	٠.	4th node detectable				
19	第9葉又はそれ以上の展開	35	第5節が認められる				
	9 or more leaves unfolded		5th node detectable				

Zadoks Decima code	l 説明 Description	Zadoks Decimal code	Į 説明 Description
36	第 6 節が認められる 6th node detectable		開花期 Anthesis
37	止め葉が認められる Flag leaf just visible	60	開花始め Beginning on anthesis
39	上め葉の葉舌/襟の視認期 Flag leaf ligule/collar just visible	65	開花半分 Anthesis half-way
	Thag feat figure/contai just visiole	69	開花完了 Anthesis completed
	穂ばらみ期 Booting		
41	止め葉の葉しょうの伸展 Flag leaf sheath extending		乳熟期 Milk development
43	想ばらみ視認期	71	穎果に水分が満ちる
	Boots just visibly swollen		Kernel watery ripe
45	穂ばらみ期 Boots swollen	73	乳熟初期 Early milk
47	止め葉の葉しょうの開裂	75	乳熟中期 Medium milk
	Flag leaf sheath opening		
49	最初の芒の視認	77	乳熟後期 Late milk
50	出穂期 Inflorescence emergence 第1小穂(頂花)視認期	80	糊熟期 Dough development
50	First spikelet of inflorescence visible	80	
51	-	83	糊熟前期 Early dough
53	穂の 1/4 出穂	85	糊熟(中)期 Soft dough
	1/4 of inflorescence emerged		
55	穂の 1/2 出穂 1/2 of inflorescence emerged	87	糊熟後期 Hard dough
57	穂の 3/4 出穂		
50	3/4 of inflorescence emerged		chà thi più
59	出穂完了期		完熟期 Ripening
	Emergence of inflorescence		
	completed	91	穎果が硬化(親指の爪で割ることが困難)Kernel hard (difficult to divide with thumbnail)
		92	類果が硬化(親指の爪で窪みがつかない)
			Kernel hard (can no longer be dented with thumbnail)

Zadoks Decimal 説明 Description code

穎が日中緩む
Kernel loosening in daytime
過熟、茎の枯れ上がり及び倒伏
Overripe, straw dead and
collapsing
種子の休眠 Seed dormant
完熟種子の発芽力が50%に上が
る
Viable seed giving 50%
germination
種子休眠がとける
Seed not dormant
二次休眠の誘発
Secondary dormancy induced
二次休眠の消失
Secondary dormancy lost